

【資料編】

Ⅱ－1

平成 23 年度

「静岡県立美術館自己評価報告書」（一次評価）

第 1 章 総括的評価

第 2 章 達成目標等に対する評価

第 3 章 今後の取組

参考資料 1

展覧会に関する自己点検評価表

参考資料 2

平成 23 年度調査・研究に関する自己点検評価報告書

はじめに

静岡県立美術館では、美術館をとりまく環境が大きく変化する中で、時代の要請に適った公立美術館の実現を目指し、客観的な評価システムの構築とそれに基づく自律的な運営改善に取り組んできた。

平成13年度に職員によるワーキンググループを設置して評価指標に関する検討を開始し、平成15年7月には評価システムの構築に向けて、「静岡県立美術館評価委員会」（高階秀爾委員長）を設置し、本格的な検討を行った。

「静岡県立美術館評価委員会」による平成16年3月の中間報告書「ニューパブリックミュージアム（NPM）の実現をめざして」、平成17年4月の最終提言書「評価と経営の確立に向けて」の2つの提言を踏まえて、県立美術館では、戦略計画方式による自己評価システム（通称：ミュージアム・ナビ）を構築し、平成17年7月から運用を開始した。

また、平成18年9月には、美術館の自己評価に対する2次評価を行う「静岡県立美術館第三者評価委員会」を設置し、評価結果を運営改善につなげる評価の体制を整えた。これまでの自己評価報告書をはじめ、評価に関する資料はすべてホームページ等を通じて情報公開を行っている。

さらに、平成20年度には、3年間の取組を踏まえ、より適切な評価事業を進めるため、自己評価システムの見直しに取り組み、第三者評価委員会の意見も踏まえながら、平成20年度から平成22年度を計画期間とする新たな自己評価システムと、その目標等の設定を行った。

昨年度は、第三者評価委員会の意見も踏まえながら、平成23年度から25年度までの3カ年の自己評価システムの見直しに取り組み、評価指標等の見直しを行った。今年度は新たな評価指標に目標値を設定した上で、平成23年度の取組に関する自己評価結果及び平成24年度以降の取組について報告書にとりまとめた。

報告書は、まず第1章において、館長による全体的な自己評価結果を示した上で、第2章で、4つの運営基本方針それぞれについて、評価指標による達成目標等の実績に基づいて自己評価を行った結果を記載している。第3章では、これらの自己評価結果を踏まえた平成24年度以降の取組について記載している。

皆様には、静岡県立美術館のより一層の業務改善と適切な評価システムの構築に向けた御意見・御提案をいただければ幸いである。

静岡県立美術館 自己評価システムの全体像

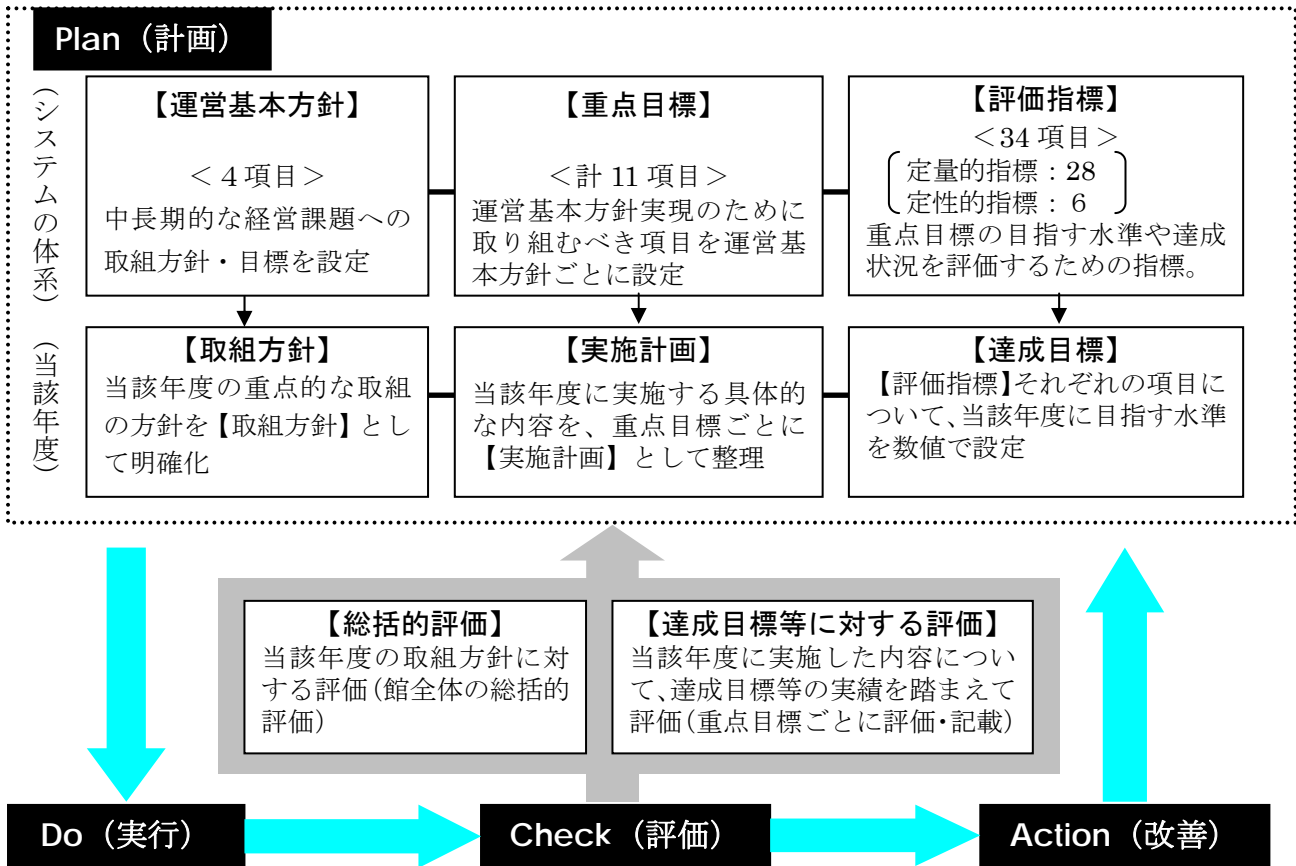
(平成 23 年度～平成 25 年度)

【使 命】 =美術館のめざす姿

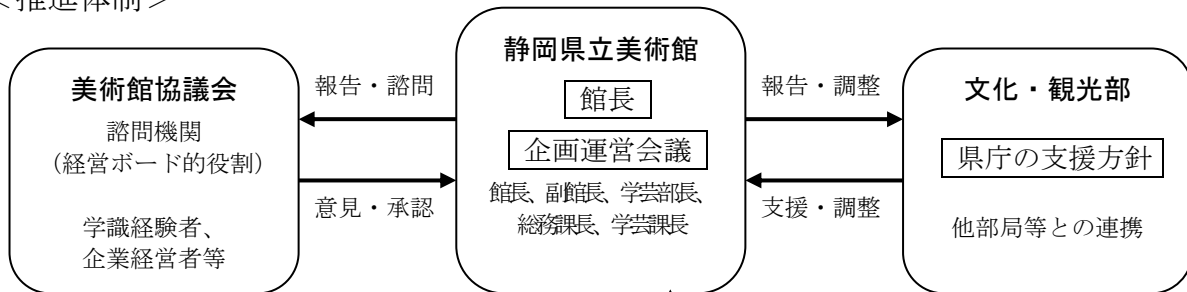
静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、コレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります

<自己評価の流れ>

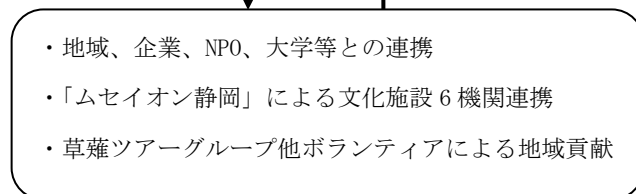
目標管理システム＝P計画→D実行→C評価→A改善のサイクルによる運用



<推進体制>



<協力体制>



自己評価システムの体系

(平成 23 年度～平成 25 年度)

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針		重点目標		評価指標	
A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1	展覧会の来館者数
		2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	3	作品やテーマに興味を持った人の割合
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	4	展覧会における新規来館者の割合
		2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	5	展覧会に対する外部評価【定性】
		3	地域住民、企業、NPO 等と連携した美術館活動を充実します	6	調査研究の発表回数
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	7	内部セミナー・研究会・研修の回数
		2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	8	他の美術館や大学と連携した取組件数
		3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	9	調査研究に関する外部評価【定性】
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	10	収蔵品展の観覧者数
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	11	収蔵品の公開件数
				12	作品購入件数・価格
				13	作品寄贈件数・価格
				14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
				15	学校教育と連携した取組数
				16	鑑賞系プログラム数
				17	コレクションを活用したプログラム数
				18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
				19	講演会等の開催件数
				20	学芸員のフロアレクチャー等の数
				21	地域住民等と連携した取組数
				22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
				23	地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定
				24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				25	ホームページのアクセス件数
				26	ホームページの満足度
				27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
				28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
				29	ロダン館の入館者数
				30	美術館利用者数
				31	鑑賞環境に対する満足度
				32	レストラン・カフェに対する満足度
				33	ミュージアムショップに対する満足度
				34	来館者のアクセス満足度

第1章 総括的評価

第1章では、平成23年度の静岡県立美術館の運営全体について、「平成23年度取組方針」に基づいて総括的な評価を行った。

1 取組方針に対する評価

平成23年度は、以下3点を取組方針として重点的な取組を行った。

- ① 他館との連携強化による企画展の充実
- ② 収蔵品展の充実
- ③ より積極的な広報の工夫とロダン館の観光ルート化に向けた取組

取組方針別の具体的な成果を以下に示す。

<運営基本方針A：人々の感性を豊かにし、生活に感動をもたらすような展覧会を催します>

① 他館との連携強化による企画展の充実

- ・石橋財団ブリヂストン美術館から作品を一部借用して、都市と風景画との関連性を探る「芸術の花開く都市」展を開催し、都市をテーマとした当館コレクションの位置付けを行った。
- ・京都国立博物館のコレクションを活用した「京都千年の美の系譜」展では、連携による企画内容の充実を図り、質の高い作品の展示を実現するとともに、当館での展示の機会の少ない漆工・金工・考古・陶磁といったジャンルの作品を紹介することができた。
- ・「小谷元彦」展では、学芸員の日頃の研究成果を活かし、作品の新たな制作や設置を行い、特色あるインスタレーション※を試みたことで、これまであまり来館したことのない若年層の誘客を図るとともに作品に対するより深い理解に成果を上げることができた。

※インスタレーション：壁や床に棒、板、針金などを使って組み立てた作品

② 収蔵品展の充実

- ・所蔵コレクションを中心とした企画展「百花繚乱」展を開催し、2,500点を超える当館コレクションを可能な限り多く鑑賞いただくための、額装作品の二段掛け展示や作品を鑑賞するためのスロープの設置など様々な工夫をした。
- ・一年間を通じて、学芸員の日頃の研究成果を活かして、様々なテーマによる収蔵品展を開催した。
- ・企画展及び収蔵品展の入館者数は、いずれも目標に至らず、今後の企画内容に反省を残した。

<運営基本方針C：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます>

③ より積極的な広報の工夫とロダン館の観光ルート化に向けた取組

- ・継続して戦略的な広報に取組むため、館内に副館長を委員長とする「静岡県立美術館広報委員会」を設置し、新たな広報媒体の検討や「静岡県立美術館の未来館者に関する調査」等を実施した。

- ・例年実施している SPAC(静岡県舞台芸術センター)との共催による「ロダンと朗読とチェロの午後 ダンテ『神曲』を読む」をはじめとして、《地獄の門》や《考える人》を間近で見ることのできる「やぐらプロジェクト」、静岡 A0I との連携による「ロダン賞受賞記念コンサート」等を実施し、より積極的な広報に取り組んだ。
- ・旅行会社と協働し、ロダン館、ロダン体操を基軸にした観光商品の造成に取り組み、ツアー商品として提案した。
- ・東京、大阪で開催した「ふじのくにしずおか観光大商談会」に参加し、県立美術館の PR を行った。さらに観光ルート化に向けた検討を行った。

④ その他の取組

<運営基本方針 B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します>

- ・学校向けオリエンテーションやボランティアとの対話鑑賞を積極的に実施し、教育普及を「実技系」から「鑑賞系」へと移行するよう努めた。【新規】
- ・「ちょこっと体験」を導入することで、鑑賞者への鑑賞理解を促した。【新規】
- ・第 3 回鑑賞教育指導者研修会を実施し、鑑賞プログラムの充実を図るとともに学校教育との連携に取り組んだ。
- ・ボランティア「草薙グループ」によるお茶会を実施するなど、参加者の美術館や地域への理解を深めた。

<運営基本方針 D：施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます>

- ・館内各所の施設改修、改善に努めた。
- ・来館者のアクセス満足度を高めるため、案内の方法等を工夫した。
- ・カフェの照明を替える等、落ち着いて喫茶できる雰囲気づくりに努めた。

第2章 達成目標等に対する評価

第2章では、4つの運営基本方針に基づいて実施した内容について、評価指標の実績を踏まえて自己評価を行った結果を記載した。

自己評価システムでは、4つの運営基本方針を実現するために取り組むべき項目を具体化した「重点目標」を設定した上で、重点目標それぞれについて、達成状況を評価するための評価指標（＝「達成目標」）を設定している。

したがって、以下では、重点目標を単位に、達成目標の実績、定性的評価指標の状況を記載した上で、その重点目標の達成状況全体に対する自己評価を記載した。

1 運営基本方針Aの達成状況

【運営基本方針A】

人々の感性を豊かにし、生活に感動をもたらすような展覧会を催します

(1) 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23目標	H23実績
1	展覧会の来館者数(人)	190,669	119,416	266,786	170,000	128,326
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数(回)	4	2	3	4	4
3	作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	86.0	80.9	85.2	88.0	85.7
4	展覧会における新規来館者の割合(%)	17.3	21.4	21.5	20.0	15.7

(定性的指標の状況)

評価指標5	展覧会に対する外部評価(レビュー)
主な状況	<p>【百花繚乱展】〈自主企画展〉 美術館の体系的な収集活動が反映された、充実した展覧会となっていた。収蔵企画展ならではの自由な構成が、これまでの企画展にはない新鮮さを与えていた点は評価できる。 (坂本委員)</p> <p>ジャンルごとの章立てでありながら、全体として風景表現の多様性が分かる内容となっていたのは、これまでの体系的な収集の賜物だろう。作品相互の関係がやや見えにくい部分もあったが、大変見応えがあった。 (山梨委員)</p>
	<p>【小谷元彦展】〈参加型企画展〉 作家のこれまでの歩みがよく理解できる内容であっただけでなく、彫刻とは何かという作家の問題意識を観覧者にも投げかける刺激的な内容となっていた。図録も充実している。 (金原委員)</p>
	<p>世界的に活躍している作家を取り上げ、美術館の空間という制約の中で工夫を凝らした展示がなされていた。作家・作品に対する批評的な視点があればなお良かった。 (潮江委員)</p>

	<p>【芸術の花開く都市展】〈自主企画展〉 都市（人間）と田園（自然）の融合を示した展覧会として評価できる。写真も展示するなど構成が工夫され、図録の論考も充実していた。 （坂本委員）</p> <p>所蔵品に単館からの借用作品を加えた構成は、予算面でも内容面でも成功しているだろう。図録も見やすく、充実した内容となっている。 （金原委員）</p> <p>【京都千年の美の系譜展】（自主企画展） 出品作品が充実していたことはもちろんだが、単なる名品主義に終わらない作品の選択、解説がなされていた。少数ではあるが、工芸品に目配りをしていたのも好感が持てる。 （金原委員）</p> <p>工芸が手薄であった感は否めないが、出品作品は大変充実していた。特に、《山水屏風》が出たのはすごい。こうした展覧会の背景にある人的交流と、学術的研究をさらに進めたい。 （榊原委員）</p>
--	---

（その他参考指標）

・展覧会の開催状況

（単位：人）

展 覧 会 名		期 間	観覧者見込み	観覧者実績
企 画 展	◎静岡県立美術館コレクション 百花繚乱展	4/9～ 5/15 (33 日間)	15,000	17,772
	○小谷元彦展	5/28～7/10 (38 日間)	13,900	10,904
	◎開館 25 周年記念 芸術の花開く都市展	7/19～ 9/8 (46 日間)	25,600	15,368
	◎京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜展	10/22～12/4 (38 日間)	32,000	24,140
	草原の王朝 契丹展	12/17～3/4 (65 日間)	44,000	34,245
収蔵品展		年 間	21,000	14,506
ふじのくに芸術祭 2011		9/16～10/10 (22 日間)	14,000	9,691
計			165,500	126,626
移動美術展	沼津市	9/10～9/25 (14 日間)	4,500	886
	浜松市	11/1～11/5 (4 日間)		814
合 計			170,000	128,326

◎は自主企画展 ○は参加型企画展

・自主企画展等の個別分析

（単位：％）

区 分		小谷元彦展	芸術の花開く都市展	京都千年の美の系譜展
観覧者の性別	男 性	36.3	37.6	33.1
	女 性	63.7	62.4	66.9
観覧者満足度		92.3	90.0	89.9
リピート観覧者		79.6	83.9	89.6
新規観覧者		20.5	16.1	10.4

区 分		小谷元彦展	芸術の花開く都市展	京都千年の美の系譜展
新規観覧者満足度		90.0	94.5	96.0
作品やテーマに興味を持った人の割合		87.5	81.0	88.2
地域別観覧者数	中 部	55.2	55.5	58.2
	西 部	17.2	15.1	15.5
	東 部	13.0	15.5	20.1
	県 外	14.6	10.1	6.3

<分析と評価>

- ・ 展覧会の来館者数は、目標の 170,000 人に対して、128,326 人と目標には至らなかった。
- ・ 「作品やテーマに興味を持った人の割合」は、目標の 88.0%に対して、85.7%と概ね目標を達成することができた。
- ・ 新規来館者の割合は、目標に至らなかったが、「小谷元彦」展においては、20.5%に上った。
- ・ 「百花繚乱」展では、可能な限り多くの収蔵品を展示することを目標とした。これを達成するため、額装作品の二段掛け、三段掛けといったこれまでにない試みも行い、さらに高い位置の作品を鑑賞するためのスロープを設置するなど会場作りにも工夫を凝らした。また、インターネット上で作品の人気投票も行い、結果を会場に示すなど、25周年に相応しくコレクションを前面に押し出した展覧会となった。
- ・ 「芸術の花開く都市」展では収蔵品を核とし、借用は少数の館からに限って低予算化をはかるとともに、他館作品を加えることで当館収蔵品をより明確な文脈に置き、価値付けることができた。予算が厳しい中、コレクションを活かした展覧会のあり方として今後の一つの指標となるだろう。
- ・ 「小谷元彦」展は、来館者の 4 割以上を 10～20 代が占め、新規来館者が 2 割に上るなど、美術館・展覧会に縁遠い若年層の来館を促すという点で大きな役割を果たしたと考えられる。アンケート結果からも、現代美術展に対する潜在的な需用がうかがえた。
- ・ 「京都千年の美の系譜」展は、京都国立博物館の特別協力を得て開催したものであり、人的交流を中心とした他機関との連携を展覧会という形に結び付けることができた。学術的な研究成果を踏まえることはもちろん、「風景の美術館」という当館のコンセプトを展覧会テーマに反映させることで、単なる名品展に陥ることなく、優れた美術品を静岡の地に相応しい文脈の中で公開することができた。

(2) 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
6	調査研究の発表件数（種類別）（回）	14	11	14	10	18
7	内部セミナー・研究会・研修の回数（回）	12	14	12	14	12
8	他の美術館・大学と連携した取組件数（件）	5	4	3	5	3

※調査研究の発表件数とは、主な論文(カタログ論文・研究紀要・学术论文・学会発表等)の発表件数である。

なお、詳細は「別添参考資料1 平成22年度 調査・研究に関する自己点検評価報告書」を参照。

(定性的指標の状況)

評価指標 9	調査研究に関する外部評価（レビュー）
主な状況	<p>①研究紀要 新田建史「静岡県立美術館の地震防災体制について」 (5/7 レポート締切)</p> <p>②研究紀要 福士雄也「服部永錫蒐集の書画帖—《縮地妙詮帖》とその周辺—」 (5/7 レポート締切)</p>

<分析と評価>

- ・ 調査研究の発表件数は、目標の10件を大きく上回る18件となった。
- ・ 他の美術館・大学との連携は、目標の5件には届かず3件となった。
- ・ 「百花繚乱」展「芸術の花開く都市」展は、いずれも収蔵品を展示の核としたものだが、作品解説や図録に当館のこれまでの研究成果が大いに盛り込まれており、作品だけでなく研究の蓄積をも同時に示すことができた。
- ・ 「小谷元彦」展は、当館では2年振りとなる現代美術作家の回顧展であった。図録への寄稿はもちろん、必ずしも現代美術向きとはいえない当館の展示空間の中でいかに作品を展示するかという点においても、担当者の日頃の研究成果が活かされた。
- ・ 「京都千年の美の系譜」展では、京都国立博物館との連携によって企画性の高い展覧会を実現した。当館での展示の機会の少ない漆工・金工・考古・陶磁といったジャンルの作品を含めた展示構成や、今後の活用価値の高い図録は、そのことを端的に示している。

(3) 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
10	収蔵品展の観覧者数 (人)	17,850	18,042	12,526	21,000	14,506
11	収蔵品の公開件数 (貸出し含む) (件)	446	496	337	500	647
12	作品購入件数・購入価格 (件・千円)	3 12,757	3 133,350 (113,400)	4 8,450 (86,000)	1 5,000	1 5,000
13	作品寄贈件数・評価価格 (件・千円)	47 69,625	20 22,950	2 92,500	10 10,000	36 35,750

12 () は、基金対応額

(定性的指標の状況)

評価指標 14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート
主な状況	<p>【西洋】 平成 23 年度から翌年度にかけて、国立西洋美術館、福岡市美術館、当館を巡回する「ユベール・ロベール」展に、計 5 点の油彩画が出品された。ユベール・ロベールの《ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーロ》ほか、ロベールと関わりのあるフランソワ・ブーシェなどである。同展への日本所蔵の作品出品としては非常に多く、これは当館の西洋風景画の系統的な収集が他館からも認知されている好例である。</p> <p>【日本画】 岡本豊彦《武陵桃源図屏風》、河村文鳳《武陵桃源圖屏風》が、「桃源万歳」展（岡崎市美術博物館）に出品され、東アジアにおける桃源イメージの系譜上に明確に位置付けられた。いずれも、近世におけるこの主題の大作として、その重要性が浮彫りとなった。また、「長沢芦雪」展（MIHO MUSEUM）に長沢芦雪《牡丹孔雀図》ほか寄託品 2 点、「松岡映丘」展（島根県立美術館ほか）に松岡映丘《今昔ものがたり 伊勢図》、「酒井抱一と江戸琳派」展（千葉市美術館ほか）に酒井抱一《月夜楓図》が出品されるなど、相次いで開催された大規模回顧展において、いずれの作品も作家の重要作として位置付けられた。作家の歴史が更新される中で、改めて各作品が定位されたことは意義深い。</p> <p>【日本洋画】 チャールズ・ワグマン《富士遠望図》及び平木政次《富士》が、「ワグマンが見た海-洋の東西を結んだ画家-」展に出品され、前者はワグマンの成熟期の作品として位置付けられ、後者はワグマンが日本人画家に伝えた絵画技法の成果を示す例として紹介された。</p> <p>【現代】 公立美術館 4 館を巡回した「画家たちの二十歳の原点」展に石田徹也の作品を 3 点出品。若さゆえのナイーブな表現に焦点をあてたテーマが共感呼び、話題を集めた展覧会であった。石田の代表作《飛べなくなった人》は、展覧会の印刷物にも使用され、同展を象徴する 1 点となった。また、草間彌生《無題》を、フランスのポンピドゥー・センターとイギリスのテイトモダンの「草間彌生」展に出品。ヨーロッパの主要美術館で現代日本人作家の個展が開かれるのは初めてで、日本の女性作家が西洋美術史の文脈の中でどのように位置づけられるかを知るといふ点からも、美術史上意義深い展覧会であった。同展への出品により、所蔵作品の評価が一層高まると考えられる。</p>

(参考指標)

作品購入の内容

作者名	作品名	材質・形状	価格
狩野永岳	富士三保松原図	絹本着色一幅	5,000,000円(税込)

<分析と評価>

- ・ 収蔵品展の観覧者数は、目標の21,000人に対して14,506人、達成率は69.1%であった。
- ・ 収蔵品の公開件数は、収蔵品を中心とした企画展を2本と年間を通じて収蔵品展を開催したことで目標を大きく上回った。
- ・ 作品購入は予算の関係上で1件にとどまったが、作品寄贈が目標の件数と評価額を大幅に上回った。
- ・ 狩野永岳《富士三保松原図》を購入したことで、富士山の絵画の展示に活用するなど、コレクションの充実を図ることができた。

2 運営基本方針Bの達成状況

【運営基本方針B】

地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

(1) 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
15	学校教育と連携した取組数 (件)	385	305	348	350	530
16	鑑賞系プログラム数 (件)	15	13	13	13	20
17	コレクションを活用したプログラム数 (件)	16	17	19	16	19

(定性的指標の状況)

評価指標 18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート
主な状況	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞教育指導者研修会や出張美術講座を継続的に行ってきたことにより、鑑賞プログラムを中心に、学校教育との連携機会が増えてきた。 教員研修やインターンシップ制度を有効に活用することにより、教育普及における人材育成につながった。 実技系プログラムでは、企画展・収蔵品展にかかわりのある内容の実施を心掛けることで、参加者が館内を鑑賞してから制作を行い、意識も作品のレベルも高まった。 「ちょこっと体験講座」を導入することにより、観覧者への鑑賞教育の一助とすることができた。

(参考指標の状況)

普及プログラムの実績 (定量的評価の内訳)

プログラム名	学校教育と連携した取組数	人数	鑑賞系プログラム	コレクションを活用したプログラム
特別講演会			○	
美術講座			○	○
鑑賞講座			○	○
日本画をじかに見る			○	○
学芸員によるフロアレクチャー			○	○
ボランティアのギャラリーツアー			○	○
一般向けオリエンテーション			○	
学校団体向けオリエンテーション	137	8,650	○	
学校団体向けボランティアとの鑑賞ツアー	76	6,585	○	○
ロダン体操	5	184	○	○
タッチツアー			○	○
展覧会関連普及事業 (観覧者対象) (やぐらプロジェクト、《考える人》折り紙プロジェクト、岩手県立美術館連携うちわプロジェクト)			○	○

プログラム名	学校教育と連携した取組数	人数	鑑賞系プログラム	コレクションを活用したプログラム
展覧会関連普及事業（学校対象） （高校生ギャラリートーク、第三回鑑賞教育指導者研修会、福島県いわき市立湯本第一小学校&静岡大学教育学部附属静岡小学校の絵画交換展示）	3	223	○	
音のかけらワークショップ	3	37	○	○
美術館の秘密を探れ	8	341		
ロダン館ななふしぎ	17	975	○	○
色彩・工作アトリエ（収蔵品展・契丹展連携）				○
ロダン館コンサート			○	○
ロダン館デッサン会				○
ロダン館デッサン実習	11	305		○
ちょこっと体験（四種）			○	○
実技入門講座、実技講座、技法セミナー			○	○
ART!、ARU?（美術部等団体参加校あり）	5	391		
出張美術講座	39	2,496		○
教員支援（研修等）	5	5		
出張粘土教室（H24 実施予定）	0			
粘土教室、絵具教室	165	7,270		
粘土貸出し	14	14		
レプリカ貸し出し	2	2	○	○
教員サポート（授業相談等）	23	23		
先生向け粘土・絵の具教室研修会（H24 実施予定）	0			
職場体験・インターンシップ	17	87		
合計	530	27,582	20	19

<分析と評価>

- ・ 粘土・絵の具教室など体験系プログラムの人気も依然として高いが、一方で学校向けのオリエンテーションやボランティアとの対話鑑賞の依頼が増えている。今後、美術館として体験系から鑑賞系のプログラムへと、どのように移行していくべきかが課題である。
- ・ 美術館の舞台裏を見学する「美術館の秘密をさぐれ」の人数が増え、いろいろな職種職場見学への関心が高まっている。一方で、「ロダン館ななふしぎ」は減少傾向にあり、「ななふしぎ」に変わるロダン館の新しいプログラムの開発が必要である。

(2) 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
19	講演会等の開催回数 (回)	240	173	179	210	170
20	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	58	86	123	20	105

※20 学芸員のフロアレクチャー等の数は、下記の参考指標等の状況の1～7までの積算である。

(参考指標の状況)

講演会等の開催回数 (プログラム別)

	プログラム内容	回数
1	学芸員 オリエンテーション	20
2	学芸員 美術講座	3
3	学芸員 鑑賞講座	3
4	学芸員 日本画のじか見	0
5	学芸員 フロアレクチャー	40
6	学芸員 出張美術講座【小・中・高校等へ出張】	35
7	学芸員 フロアレクチャー (モン・ミュゼ沼津、浜松江之島高校)	4
8	特別講演会【外部講師による】	10
9	特別講演会【館長による】	1
10	ギャラリートーク【外部講師による】	1
11	「百花繚乱」展ボランティアギャラリートツアー	4
12	収蔵品展ボランティアギャラリートツアー	49
	合計	170

(注)「2 学芸員 美術講座」は、美術作品について美術史の知識等を用いながら解説をする講座であり、「3 学芸員 鑑賞講座」は、親子の鑑賞者に対して、解説を交えながら、作品をじっくりとご覧いただく講座である。

<分析と評価>

- ・ 講座・講演会等の回数は、目標には至らず、前年度並みであった。内訳は、学芸員のフロアレクチャーが10回増え、美術講座が6回、鑑賞講座が3回減少した。フロアレクチャーの増加は「百花繚乱」展で、毎週末学芸員が交代で作品解説を行ったことが主な要因である。講座系の減少は、前年度トリノ・エジプト展で6回講座を行っていた部分が減り、例年並みに戻ったことと、親子、ファミリー向け講座が3回減ったことが理由としてあげられる。親子、ファミリー向け講座は、新規来館者開拓のためにも意識的にプログラムに組み込んでいく必要がある。
- ・ 学校向け出張美術講座が16回減少しているが、これは毎年1月に行われる中学生事業の日数が半減したことが原因である。

(3) 地域住民・企業・NPO等と連携した美術館活動を充実します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
21	地域住民等と連携した取組数 (件)	10	6	6	4	6
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	101 4,054	34 6,506	62 4,908	90 5,500	83 13,929

(定性的指標の状況)

評価指標 23	地域住民等と連携した取組に関する美術館職員のレポート
主な状況	<ul style="list-style-type: none"> 美術館ボランティア草薙ツアーグループによるお茶会は、来館者サービス、地域連携の活動として各展覧会で実施した。 県政さわやかタウンミーティングを年2回開催し、県内大学生と「美術館に望むこと」について、意見交換会を実施した。 谷田地区文化連携機関「ムセイオン静岡」では、静岡リビング新聞社との共催で全6回の文化に関する講座「ムセイオン楯岡堂講座」を企画し、文化の情報発信のための活動を行った。 ふじのくに文化の丘フェスタでは、館内レストラン・エスタでのライブ演奏に学芸員による収蔵品展「彼方からの光」の特別解説を付けた「ミュージアム・アフタヌーンライブ」を開催した。 友の会 25周年記念講演会(高階秀爾氏と芳賀徹氏の対談)を実施した。 市内美術館と連携した Kids Art Project の取組も、子供たちに作品鑑賞機会を提供した。

<分析と評価>

- 館内空間を生かした催事の件数は、目標の90件に対して83件、参加者数は5,500人に対して13,929人であった。ロダン館に設置した展望台から《地獄の門》《考える人》を鑑賞する「やぐらプロジェクト」では、実施期間中に9,000人近い参加者があり、ロダン彫刻の新しい鑑賞方法を提供することができた。
- エントランスホールで行った体験系プログラム「ちょこっと体験」では、来館者が気軽に参加できるということもあり、予定人数の2倍を超える参加者があった。
- 美術館ボランティアは、新体制で活動を再スタートして2年が経過した。各グループの活動頻度が上がり、経験が蓄積されたことで、充実したボランティア活動、美術館事業への理解、そして来館者サービス意識の向上につながっている。ボランティア草薙ツアーグループによる彫刻プロムナード茶畑の茶摘み会、茶会等の取り組みは、来館者サービスや地域連携の活動として定着した。

3 運営基本方針Cの達成状況

【運営基本方針C】

さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

(1) 広報戦略を策定し、広報の質を高めます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合 (%)	69.8	66.5	69.4	70.0	70.6
25	ホームページへのアクセス件数(件)	164,000	147,225	353,500	170,000	419,000
26	ホームページの満足度 (%)	74.3	71.9	74.3	70.0	71.7

<分析と評価>

- 「美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合 (%)」、「ホームページへのアクセス件数」とともに増加している。「ホームページの満足度 (%)」は、23年度は22年度よりやや下がり21年度並みであった。これは、21年度末までに3年間連続して行ってきたホームページのリニューアル作業が完了し、質量ともに内容が充実した22年度に数値が上昇し、23年度は内容が定着したためと考えられる。23年度は、ホームページのコンテンツのうち、美術館の基本的な情報について、中国語版(繁体字、簡体字)(11月)と、韓国語版(24年2月)を新たに追加したので、さらなるアクセス数と満足度の上昇が期待される。
- 館内に広報委員会を設置し、広報実績などの情報を共有化することで、美術館職員の広報に対する意識改革に繋がった。

(2) 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	-	-	-	2	5

(定性的指標の状況)

評価指標 28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート
主な状況	<ul style="list-style-type: none"> 美術館の基本的な情報の英語版を翻訳して中国語版(23年11月)、韓国語版(24年2月)を作成し、ホームページの多言語化に努めている。 観光業界との連携として、モバイルスタンプラリーのチェックポイントに登録し来館者増に努めた。また、観光アドバイザーのアドバイスをもとに、観光協会の旅行代理店向け広報誌「静岡発AGT通信」(650部発行)にロダン館情報を掲載。観光協会経由で就航先等にロダン館リーフレット、チラシを配布した。 新たな広報チャンネルを開拓するため、旅行会社、商工会議所に広報連携を依頼し、商工会議所広報誌に「京都千年の美の系譜」広告を掲載。 当館からの情報発信、取材を受けたものについて職員が互いに認識し、館全体の広報に眼を向けるため、広報実績を毎月の定例会で報告している。 首都圏、関西圏における「ふじのくにしずおか観光大商談会」に美術館職員が参加し、旅行会社等に美術館のPR活動を行った。 「ふじのくに大使館 静岡県東京事務所」と連携し、積極的に県外広報に努めた。

<分析と評価>

- ・ 観光業界や他のイベントとの広報連携については、新たな取組として、NTT ドコモ、JR が企画したモバイルスタンプラリーに参加、さらに、藤枝、焼津、島田の商工会議所に広報連携を依頼し、各商工会で発行する広報誌に展覧会情報を掲載するなど、当館への来館のきっかけとなる情報発信を積極的に行ったことで目標の件数を上回った。新たな広報チャンネルの開拓という点では成果があったが、誘客に結びつけるということについては今後の課題である。
- ・ 首都圏、関西圏における観光 PR イベントに参加し、観光会社等に直接美術館を PR したことは、ロダン館に興味を示す首都圏旅行会社が現れるなど、大変貴重な広報機会となった。

(3) ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
29	ロダン館の入館者数(人)	81,771	45,751	131,240	80,000	63,102

<分析と評価>

- ・ ロダン館の入館者数は、目標 80,000 人に対し、63,102 人で達成率 78.9%であった。これは、企画展の観覧者数が目標の 8 割弱にとどまったことが要因であると考えられる。
- ・ 静岡県舞台芸術センター (SPAC) との共催による詩の朗読、静岡音楽館 AOI との連携による「ロダン賞コンサート」、《地獄の門》の前に設置した高さ 3m の展望台から、普段見えにくい作品上部を鑑賞いただく新規事業「やぐらプロジェクト」を実施したことで、来館者に、新たな美術館の楽しみ方や、作品の鑑賞方法を提示することができた。
- ・ ロダン館開館 20 周年を見据え、上記事業の定例化、学芸員による作品解説の定期的な実施等を検討し、観光ルート化を図る必要がある。

4 運営基本方針Dの達成状況

【運営基本方針D】

施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます

(1) 館内施設を充実させ、満足度を高めます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
30	美術館利用者数（内訳）（人）	389,194	221,185	459,489	400,000	284,097
31	鑑賞環境に対する満足度(%)	87.4	84.4	89.8	90.0	90.4
32	レストラン・カフェ利用者の満足度(%)	54.5	68.8	53.8	70.0	71.3
33	ミュージアムショップ利用者の満足度(%)	80.6	84.4	85.6	85.0	86.8

(参考指標の状況)

・利用者数の内訳

(単位：人)

区 分	H23 目標	H23 実績
展覧会観覧者数	165,500	126,626
移動美術展	4,500	1,700
教育普及プログラム参加者数	28,000	34,729
ミュージアムコンサート入場者数	300	600
県民ギャラリー入場者数	93,200	53,147
講堂入場者数	18,500	10,535
レストラン利用者数	49,000	37,456
ミュージアムショップ利用者数	34,000	16,860
図書閲覧室利用者数	7,000	2,444
合 計	400,000	284,097

<分析と評価>

- ・美術館利用者数が、目標の400,000人に対して、284,097人であり、目標を大きく下回った。これは展覧会観覧者数が目標の165,500人に対して128,326人であったことが大きな要因と考えられる。
- ・老朽化した電話交換機を更新して多機能電話に変更し、電話での問い合わせに対して迅速で的確に対応できるようにしたことで、利用者の利便性向上につながった。
- ・実技室において教育普及プログラムを実施する際、雨の日でも中庭が利用できるよう実技室横の壁に庇を設置したことにより、教育普及プログラムの利用向上が期待できる。
- ・ロダン館の照明灯をLED電球に交換し、使用する電力量の抑制を図った。
- ・カフェの照明をオレンジ色に変更して柔らかい雰囲気になるとともに、外の景色が楽しめるよう窓のステッカーを除去し、カフェの環境改善を図る等、来館者へのサービス改善につながった。

(2) 周辺環境やアクセスの利便を向上させます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
34	来館者のアクセス満足度 (%)	76.4	78.0	75.8	80.0	81.8
		80.7	75.8	72.0		69.2

※ 実績の上段：公共交通機関で来所した方、下段：自家用車で来所した方

<分析と評価>

- ・「来館者のアクセス満足度」については、公共交通機関利用者の満足度が目標 80%に対して 81.8%で目標を上回ったが、自家用車の満足度は 69.2%と目標の 80%を下回る結果となった。
- ・プロムナードの経年劣化した侵入防止杭やロープの打ち替え等を行い美観の向上を図るとともに外灯の清掃を実施するなど防犯の観点からも周辺環境の向上につながった。
- ・公共交通機関利用者からのアクセスの問合せに対しては、「JR 草薙駅から 20 分間隔で運行する 100 円バスの利用が便利であること」を引き続き周知するよう配慮した。
- ・駐車場の確保について、来館者の多い企画展の土、日、休日には、隣接する県立大学の職員駐車場を借用し、美術館来館者の利便性の向上につながった。

第3章 今後の取組

第3章では、自己評価結果を踏まえた平成24年度の取組について記載している。

まず、平成24年度における重点的な取組に関する考え方を、運営基本方針ごとに、「平成24年度取組方針」として明らかにした上で、具体的な実施内容を重点目標ごとに「平成24年度実施計画」として整理した。

また、平成22年度に設定した平成25年度までの「達成目標」を示した。

1 平成24年度取組方針

<全体方針>

○ 静岡県立美術館開館30周年及びロダン館開館20周年に向けた事業並びに美術館運営の検討

2014年（平成26年）のロダン館20周年、2016年（平成28年）の美術館30周年に向けて、プロジェクトチームを設置し、今後の事業展開の中で、周年イベント等への機運の盛り上げを図るとともに、周年事業の具体的な検討を行う。また20周年、30周年を契機に今後の静岡県立美術館の経営展望について、連携、広報、施設整備等を含めた包括的な検討を行う。

<運営基本方針A：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します>

① 他館との連携強化による企画展の充実

当館学芸員の調査・研究及びネットワークを活用し、他館との連携をさらに強化して、企画展の充実を図る。今年度は、国立西洋美術館等との連携による「ユベール・ロベール」展、江戸東京博物館との共同調査研究・企画による「維新の洋画家-川村清雄」展を開催する。

また広島県立美術館との相互協力協定締結にもとづいて、コレクションの相互活用、人材交流等を図ることで、より充実した企画展等を開催し、美術館の活性化を進める。

② コレクションを活用した企画展の開催

1986（昭和61）年に開館した当館は、準備室以来継続して、主に「17世紀から今日に至る風景画」をコレクション・ポリシー（収集方針）として作品収集及び企画展を行ってきた。

今年度は、学芸員の日頃の調査・研究を活かし、コレクションを活用した企画展を3本開催し、当館コレクションを広く周知するとともに、コレクションを中心とした今後の企画展の運営について検討する。これからの公立美術館のあり方を考える上で、重要な指針・取組となるよう努める。

<運営基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します>

③ 教育普及活動の充実

今後の教育普及の方針について検討する。全国的にみても、公立美術館の教育普及活動は、「実技系」から「鑑賞系」へと転換しつつあり、そうした観点から当館でも、平成21年度から23年度にかけて「鑑賞教育指導者研修会」を開催して、人材育成に努めてきた。今年度は、今

後の教育普及の方針を見据えながら、新たな人材育成、事業の充実に取り組むこととする。

また、静岡市内の美術館と連携して「Kids Art Project」を実施し、子供たちに美術館・博物館にふれてもらう機会を提供する。

④ 企業等との連携についての検討

「平成 23 年度第三者評価委員会」の提言に盛り込まれた「企業等との連携」について、その可能性について模索する。平成 22 年度は、地元企業はごろもフーズ株式会社より、《富士三保松原図屏風》の寄贈を受けた。こうした支援は、収蔵品を充実させる意味でも、また当館と企業との連携・協力という点でも重要である。今後は、様々な地元企業との連携について、その可能性を検討することとする。

<運営基本方針C：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます>

⑤ 効果的な広報の実施とロダン館の PR に向けた取組

県文化・観光部と一体となって、広報戦略を策定するとともに、従来のメディアだけでなく様々な媒体への積極的なアプローチを行う。特に若年者層と未来館者にターゲットを絞った広報を実施する。

またこれまでの取組を総括した上で、ロダン館でのコンサート等の事業を実施し、ロダン館の PR に取り組むこととする。

<運営基本方針D：常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます>

⑥ 施設の改善に向けた検討

自己評価結果及び第三者評価委員会からの提言により、平成 21 年度より新設した「カフェ・ロダン」については、店内の内装、メニュー等についての課題が多い。本年度は、カフェの改善に向けた検討を行う。

ロダン館についても、ロダンやその作品について、観覧者がより分かりやすい展示・解説にするべく検討する。

また開館 30 周年に向けた施設改修のためのロード・マップ策定についての検討を行う。

2 平成 24 年度実施計画

【運営基本方針 A】

人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します

(1) 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

<他館との連携による企画展>

- ・学芸員の共同研究に基づいて、国内初のユベール・ロベールの回顧展を開催する。
(「ユベール・ロベール」展)
- ・本県ゆかりの画家・川村清雄を新たな資料をもとに歴史的に位置付ける。(「川村清雄」展)

<コレクションを活用した企画展>

- ・色をテーマとして、多種多様な当館収蔵品の中から名品を紹介する。
(「カラーリミックス」展)
- ・当館日本洋画コレクションを中心として、日本近代油彩画史を概観する。
(「日本油彩画 200 年」展)
- ・日本美術の素材・形式をテーマとして、当館収蔵品及び秘蔵のコレクションを紹介する。
(「江戸絵画の楽園」展)

<博物館に関連する企画展>

- ・発掘資料をもとにマチュピチュとインカ帝国の謎を解き明かす。(「大インカ帝国」展)

<平成 24 年度企画展開催計画>

展 覧 会 名		期 間	観覧者数見込
企 画 展	静岡県立美術館収蔵名品選 カラーリミックス展	4/14～5/27 (39 日間)	14,000
	日本油彩画 200 年－西欧への挑戦展	6/9～7/22 (38 日間)	10,000
	ユベール・ロベール展	8/9～9/30 (46 日間)	19,000
	江戸絵画の楽園展	10/7～11/18 (37 日間)	13,000
	インカ帝国展	11/27～1/27 (51 日間)	71,000
	維新の洋画家 川村清雄展	2/9～3/27 (40 日間)	15,000
収蔵品展		年間	20,000
計			162,000
移動美術展(富士宮市民文化会館)		9/12～9/29 (20 日間)	8,000(2ヶ所)
移動美術展(磐田市新造形創造館)		10/26～11/4 (9 日間)	
合 計			170,000

(2) 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します

- ・他の美術館と共同して調査・研究及び巡回展を実施する。
(「ユベール・ロベール」展、「川村清雄」展)
- ・広島県立美術館との締結にもとづいて、コレクションの相互活用、人材交流等を図る。
- ・展覧会調査や学会出席等情報収集に努める。

- ・インターンシップを受け入れる。

(3) 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

- ・コレクションを活用した企画展を積極的に開催する。
 (「カラーリミックス」展、「日本油彩画 200 年」展、「江戸絵画の楽園」展)
- ・「県立美術博物館設立基金」を活用した収蔵品の取得についての検討・取組を行う。
- ・購入・寄贈候補作品に関する情報を積極的に収集し、日常的な調査に努める。
- ・エントランス名品コーナーで富士山をモチーフとする絵画を紹介する。
- ・これまで以上に、テーマに工夫を凝らした収蔵品展を開催する。

<平成 24 年度収蔵品展開催計画>

展覧会名	期 間	展示する収蔵作品など
新収蔵品展	4/10～5/27	平成 23 年度新収蔵品
静岡県浙江省友好提携 30 周年記念 中国絵画と日本	6/9～7/22	徐霖《楼閣山水図》
親子で見て感じる現代アート	8/4～9/17	篠原有司男《次郎長バー》
無限の芸術 李禹煥の世界	9/19～11/4	李禹煥《線より》
西欧の風景画—当館収蔵品のエッセンスがここにある—	11/6～2/3	ポール・ゴーギャン《家畜番の少女》
富士山の日関連展示 富士山の絵画 2013	2/5～3/31	和田英作《富士》

【運営基本方針 B】

地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

(1) 質の高い芸術教育と普及プログラムを開発します

- ・今後の教育普及の方針について検討する。
- ・鑑賞との結びつきを深め、質の高い鑑賞系、実技系教育普及事業を実施する。
- ・学校教育の現場との交流を図り、鑑賞系教育普及事業をより充実させる。

<平成 24 年度 教育・普及プログラム 主な内容>

プログラム	内 容	実施日数等 (予定)
創作週間	実技室とその設備を創作活動のため県民に開放する	年58日
色彩アトリエ	親子でも参加できる美術体験企画として絵画を取り上げ、さまざまな技法で共同制作、展示を行うワークショップ	年2日
工作アトリエ	親子でも参加できる美術体験企画として立体・彫刻を取り上げ、共同制作を行うワークショップ	年3日
絵の具開放日	親子で参加し、絵の具で自由に遊ぶ体験の日	年8日16回
粘土開放日	親子で参加し、粘土で自由に遊ぶ体験の日	年12日36回
美術館教室	学校連携普及事業 来館園児・生徒を対象とした実技・鑑賞のプログラムと、学芸員が学校で行う出張美術講座など	年140回
出張美術講座	コレクションのレプリカやPC資料を持参して、小～大学まで幅広い年齢層を対象に、県内全域の学校で授業を実施	年40回
ちょこっと 体験講座	展覧会をみにきた方に、どなたでも15分で体験できる技法体験コーナー（エントランスにて年5回、シルクスクリーン、銅版画、木版画、日本画の体験）	年25日

(2) 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します

- ・企画展に合わせ、創意工夫を凝らした講演会、シンポジウム等を開催する。
- ・収蔵品展や企画展の美術講座及びフロアレクチャー等を実施する。

(3) 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実させます

- ・企業からの支援・協力の可能性について模索する。
- ・静岡市内の美術館と連携した「Kids Art Project」を実施する。
- ・「ムセイオン静岡」を定期的に開催し、市内文化施設6機関の連携を深める。
- ・ボランティア活動の質を高め、地域連携活動を支援し推進する。
- ・NPOとの連携についての可能性を模索する。

【運営基本方針C】

さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

(1) 広報戦略を策定し、広報の質を高めます

- ・「静岡県立美術館広報委員会」を運用して、戦略広報の策定・実施及び企画展等の事業ごとの広報を積極的に行う。
- ・若年者層と未来館者をターゲットにした広報を実施する。
- ・諸機関と連携して、新たなニュース・リソースを生み出すための素材を開拓する。

(2) 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます

- ・県文化・観光部を中心として、観光諸団体との連携を進める。
- ・評価結果を活かし、企画展及びイベントの内容に応じて、マーケティングをして、より効果的な告知先を検討する。

(3) ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

- ・県文化・観光部と連携し、ロダン館の観光ルート化に向けた取組を行う。
- ・コンサート等の事業を通して、ロダン館の魅力を発信する。

【運営基本方針D】

常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

(1) 館内施設を充実させ、満足度を高めます

- ・「カフェ・ロダン」の改善に向けた検討を開始する。
- ・レストランの更なるサービス改善に努める。
- ・ロダン館におけるより分かりやすい展示・解説について検討する。
- ・空調設備等の施設の改修に向けた検討を行う。

(2) 周辺環境やアクセスの利便を向上させます

- ・バス等の公共交通機関によるアクセスの改善について関係機関に要請する。
- ・美術館の将来構想や周辺環境の整備について検討する。

3 平成 24 年度以降の達成目標

評価指標		H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 目標	H25 目標
運営基本方針 A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します								
重点目標 1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します								
1	展覧会の来館者数(人)	184,535	190,669	119,416	266,786	128,326	170,000	170,000
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数(回)	3	4	2	3	4	4	4
3	作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	87.5	86.0	80.9	85.2	85.7	88.0	88.0
4	展覧会における新規来館者の割合(%)	19.7	17.3	21.4	21.5	15.7	20.0	25.0
重点目標 2 他の美術館・大学との連携・交流を進め、企画力を強化します								
6	調査研究の発表件数(回)※	※10	14	11	14	18	10	10
7	内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12	12	14	12	22	14	14
8	他の美術館・大学と連携した取組件数(件)	3	5	4	3	3	5	5
重点目標 3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します								
10	収蔵品展の観覧者数(人)	18,196	17,850	18,042	12,526	14,506	21,000	25,000
11	収蔵品の公開件数(貸出し含む)(件)	465	446	496	337	647	500	500
12	作品購入件数・購入価格(件・千円) (())内は、基金対応額	2 29,896	3 12,757	3 133,350 (113,400)	4 8,450 (86,000)	1 5,000	—	—
13	作品寄贈件数・評価価格(件・千円)	23 26,435	47 69,625	20 22,950	2 92,500	36 35,750	10 10,000	10 10,000
運営基本方針 B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します								
重点目標 1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します								
15	学校教育と連携した取組数(件)	290	385	305	348	530	350	300
16	鑑賞系プログラム数(件)	11	15	13	13	20	13	20
17	コレクションを活用したプログラム数(件)	14	16	17	19	19	16	20

平成 19 年度以降は、カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表等を積算している。

(それまでは、執筆した論文、携わった展覧会・教育普及活動、その他専門領域活動を含めている。)

	評価；指標	H19実績	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H25目標
重点目標2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します								
19	講演会等の開催回数(回)	214	211	240	177	170	210	200
20	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	16	17	58	123	105	120	120
重点目標3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実させます								
21	地域住民等と連携した取組数(件)	2	10	6	6	6	4	4
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	90 5,400	101 4,054	34 6,506	62 4,908	83 13,929	90 5,500	90 5,500
運営基本方針C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます								
重点目標1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます								
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	67.9	69.8	66.5	69.4	70.6	70.0	70.0
25	ホームページへのアクセス件数(件)	164,500	164,000	147,225	353,500	419,000	170,000	170,000
26	ホームページの満足度(%)	70.0	74.3	71.9	74.3	71.7	75.0	75.0
重点目標2 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます								
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	-	-	-	-	5	2	2
重点目標3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。								
29	ロダン館の入館者数(人)	74,290	81,771	45,751	131,240	63,102	80,000	90,000
運営基本方針D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます								
重点目標1 館内施設を充実し、満足度を高めます								
30	美術館利用者数(内訳)(人)	373,556	389,194	221,185	459,489	284,097	400,000	400,000
31	鑑賞環境に対する満足度(%)	87.1	87.4	84.4	89.8	90.4	90.0	90.0
32	レストラン・カフェ利用者の満足度(%)	61.7	54.5	68.8	53.8	71.3	70.0	80.0
33	ミュージアムショップ利用者の満足度(%)	76.9	80.6	84.8	85.6	86.8	85.0	85.0
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます								
34	来館者のアクセス満足度(%)※	78.1 80.1	76.4 80.7	78.0 75.8	75.8 72.0	81.8 69.2	80.0	80.0

※ 実績の上段：公共交通機関で来所した方、下段：自家用車で来所した方

展覧会に関する自己点検評価報告書

- 1 開館 25 周年記念 「静岡県立美術館コレクション 百花繚乱」展
- 2 「小谷元彦 幽体の知覚」展
- 3 開館 25 周年記念 「芸術の花開く都市」展
- 4 「京都国立博物館名品展 京都千年美の系譜」展
- 5 「草原の王朝 契丹」展

■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)

事業名称	「開館25周年記念 静岡県立美術館コレクション 百花繚乱」展
企画(事前)	
目的・内容	開館25周年を迎え、これまでの収集成果を出来る限り多くのお客様にご覧いただく。市民の皆様への感謝を表わす一環として、当館館蔵品の人気投票も実施し、皆様からの声を展示状態に反映させるよう努める。収蔵品を主体に用いた企画展としては出品点数を最大にし、各ジャンルの収集成果をアピールする。各種イベントを増やし、会期中、常に何らかの副次的な催しにもご参加いただける状態にする。
期待される成果	従来行なわれてきたコンセプト優先の展示計画と差別化を図るため、当館収蔵品の全体像をボリュームとして提示する。これにより、リピーターには当館作品に新鮮な印象を持っていただく。人気投票への参加を促すことで、新規来館者には、全体の中から自分のお気に入り作品を見つけていただく。
指標(数値目標)	観覧者数 15,000人
収支(予算) /観覧者数(見込)	・観覧者数 14,000人 ・歳出 5,699千円 ・歳入 4,066千円 ・特財率 71.3%
広報戦略	人気投票に豪華景品を設定、各種新聞への広告掲載(朝日、毎日、産経、中日)、新聞記事への掲載働きかけ(静岡、中日)、フリーペーパーへの掲載、周辺自治会へのチラシ配布、松坂屋懸垂幕掲示、テレビ、ラジオへの露出、You tubeでの展覧会紹介画像配信、ブログでの状況報告、美術系の学部・学科のある県内大学、専門学校にチラシの配架を依頼、県立大学開学祭でロダンポストカード配布を依頼、ホテルドルク、浮月樓、中島屋に割引券を配布、松坂屋店内広告「休日服と雑貨のフェア」招待券プレゼント、「高速得本」クーポンで団体割引を設定、プロムナード街路への「25周年ペナント」表示等々により、露出機会を極力増やした。

部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
担当者名	新田(堀切、石上)		総括 平成24年3月31日
実施日・場所	4月9日(土)~5月15日(日) 静岡県立美術館第1~6展示室		

学芸員の企画への参加の有無	有 ・ 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定
マスコミ等による共催の有無	有 ・ 無	巡回の有無	有 ・ 無

総括(事後)	
目的の達成度	これまでの収集成果のアピールは、十分に達成した。ウェブサイトを利用した人気投票では、一部画像は無いものの館蔵品の全データを公開した。サイトには、作品をランダムに表示する機能も併設することで、サイト利用者が思いもかけない作品の情報入手する機会も提供した。最終的な投票総数は2,300点を超過しており、単純計算で観覧者数の10%以上が展覧会企画に対して積極的に関与したことになる。投票結果を週毎に表示することで、展覧会への継続的な関心を惹起せしめた。作品2段掛けや間隔を狭くすることでの出品点数の増加、展望台の設置、フラットな照明の演出等、展示室内空間構成の工夫は、収蔵品観覧に新鮮さを与えた。
アンケートにみる特徴	
指標に基づく成果	観覧者数17,784人(118.6%)
研究活動評価委員会からの意見(要約)	
収支(決算) /観覧者数(実績)	・観覧者数 17,772人(目標 15,000人:118.6%) ・歳出 2,475千円(予算 5,699千円: 43.4%) ・歳入 6,137千円(目標 4,066千円:150.9%) ・特財率 248.0%(目標 71.3%)
今後の改善点・課題	今後、作品人気投票やリクエスト等を実施する場合には、それに相応しい予算措置を行なう必要がある。今回はそれらが全く無かったため、わずかな予算を担当者の手仕事でカバーせざるを得なかった。また、準備期間が4ヵ月しかなかったことも、担当者への負担を増大させた。 本展で製作した投票サイトは、今後館蔵品の情報を公開するためのプラットフォームとして改訂し得る。今後の展開を立案し、活用されなくてはならない。 また、本展のような展覧会は、収蔵品の質と量が生命線である。一層の作品収集が、ますます望まれるところである。

■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)	部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
	担当者名	川谷(堀切)		総括 平成24年3月31日
	実施日・場所	5月28日(土)～7月10日(日) 静岡県立美術館第1～6展示室 エントランス、ロダン館		
	学芸員の企画への参加の有無	有 ・ 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定、図録執筆
マスコミ等による共催の有無	有 ・ 無	巡回の有無		有 ・ 無

事業名称	「小谷元彦 幽体の知覚」展			
------	---------------	--	--	--

企画(事前)		総括(事後)		
--------	--	--------	--	--

目的・内容	本展は昨年11月～2011年2月に東京の森美術館で開催され、静岡県立美術館で開催の後、高松市美術館、熊本市現代美術館の4会場を巡回する。現存若手作家の展覧会という性質上、通常のパッケージ型の巡回展とは異なり、各美術館の建築要素やコレクションの特性を生かして、各美術館の学芸員と作家が協議しつつ、作品の新たな制作や設置が行われ、各会場ごとに特色のあるインスタレーションを試みられる。当館ではエントランスホールに高さ4メートルを超える木彫作品を、またロダン館の《地獄の門》前には、日本近代彫刻史に批判的に言及した作品を展示するほか、第5展示室では未発表の新作映像インスタレーションが展示される予定となっている。ここ静岡県立美術館でなければ実現しないインスタレーションによって観客を刺激する場を作り上げる。	目的の達成度	全体の入館者数という点では、目標の8割に満たなかったものの、入館者結果から、高校大学生の入館者割合が、21～22年度企画展実績の3倍となっている。この数字から、県内の若い鑑賞者に向けて的確に展覧会PRが行き届き、本来観にきて欲しい層に、展覧会を観てもらったと考えられる。身近に最先端の美術表現に触れる機会を創出し、若い人々の芸術への興味や関心をくすぐり、感性を刺激するという本展で期待した成果は、おおむね達成できたものと思う。また、ツイッターへの書き込みをリサーチしたところ、静岡県立美術館で小谷元彦展を開催することへの驚きや新鮮味を強調する書き込みが多数あったほか、観覧後の感想として、ロダン館《地獄の門》前でのインスタレーションや新作展示への反響が数多く書き込まれていたことなどから、目標に掲げた対外的な美術館力アップに少なからず貢献できたのではないかと考える。
-------	--	--------	---

期待される成果	先鋭的な若手作家を個展で取り上げることは、同時代のアートシーンに対して館としての態度を明らかにすることであり、作家の今後の評価や美術の動向に多少なりとも影響を与えることになる。美術館は本来そうした機能を担っているものだが、本展でも同様の成果が期待される。本展のように挑戦的に一人の現存作家を取り上げて問題提起していくことは、対外的に館の攻めの姿勢をアピールすることにもなり、伝統的な美術作品から最新の美術の動向までを取り扱う総合的な美術館としての活動の幅を厚くするであろうし、体系的な美術館力アップにも貢献すると思われる。また、対鑑賞者にとっては、最先端の美術表現に身近に触れる機会が創出されることにより、現在の美術に関心を持つチャンスが生まれ、新たな鑑賞者層の形成に繋がっていくと思われる。とりわけ本展の魅力は、若い世代に働きかける内容になっており、静岡県の若者の芸術への興味や関心をくすぐり、感性を刺激するであろうし、若い人の今後の鑑賞体験や嗜好の方向性にも影響を与えることもあると思われる。	アンケートにみる特徴	回答者に占める年齢層は20歳代が27.0%と最多で、次いで13歳～19歳が17.3%と多く、従来の展覧会と比べ若い人の数が目立った特徴のある結果となっている。性別では「女性」の割合が63.7%と高く、6割以上が2人以上で来館し、同伴者は「友人・知人・恋人」が半数以上を占めている。全体的な満足度は高く78.7%となっている。回答者の居住地域は「静岡市を含む中部」が55.2%と半数以上を占めている。来館のきっかけは、全体では「ポスターを見て」が28.2%と最も多く、新規来館者では「友人、知人、家族などに誘われて」が33.3%と最も多い。自由記入欄では、「新鮮味があって良い」「刺激を受けた」「現代美術作家の作品をもっと扱ってほしい」「驚きがあった」という表現が目立っている。
---------	--	------------	--

指標(数値目標)	観覧者数 13,900人、作品やテーマに興味を持った人の割合 70%	指標に基づく成果	観覧者数 10,904人(78.4%)、作品やテーマに興味を持った人の割合 87.5%
----------	------------------------------------	----------	---

収支(予算)/観覧者数(見込)	・観覧者数 13,900人 ・歳出 16,694千円 ・歳入 5,799千円 ・特財率 34.7%	研究活動評価委員会からの意見(要約)	彫刻とは何なのかが、若い鑑賞者にも刺激を与えていたという意味で、新たな指標を提示している展覧会である。この時期にこの作家を取り上げたことは時宜にかかっており学芸員の見識が示されている。様々な試みから、身体感覚が緊張感を味わうことが出来、突飛的なものの氾濫であると感じると人がいたとしても、これらは創意の願望や精神が具体化したもので、現代美術の壮大なひとつの成果を獲得した作品群と思われる。現代美術を見ても何か喜びよりもむしろ残ることが多すぎると多いが、今回は充実感、ハピネスを感じた。(金原)
-----------------	--	--------------------	--

広報戦略	静岡朝日テレビを通じてのTVCM放映、番組内宣伝。フライヤー(はがきサイズのチラシ)を作成して、市内の若者が集まるスポットに手持ちで配布し広報協力を呼びかける。県内、愛知県内の美術大学、美術、デザイン系専門学校へポスター、チラシを送付する。他機関(SPAC)と連携し、ハズターでのタイアップ企画、SPACのアパタートークへの小谷氏出演などを実施。	収支(決算)/観覧者数(実績)	・観覧者数 10,904人(目標 13,900人: 78.4%) ・歳出 16,644千円(予算 16,694千円: %) ・歳入 5,150千円(目標 5,799千円: %) ・特財率 30.9%(目標 34.7%)
------	---	-----------------	--

今後の改善点・課題	今回は、開催形態の事情により助成申請ができなかったことに加え、入館料無料の若い人の観覧者が多かったことにより、特財率がかなり低い結果となってしまった。今後の課題としては、これまでどおり助成金獲得に努力をするとともに、引き続き他館との連携や巡回展仕立ての可能性を模索していく必要がある。アンケートの自由記入欄を見ると、今後も現代美術展の開催要望が多く寄せられているが、現状、実施する機会が多いとはいえず、ここ数年は2～3年に1度のペースで行っている。今回の展覧会で獲得した若い鑑賞者層の関心を引き留め、彼らにこの先も美術館に何度も足を運んでもらえるような県立美術館愛好者になってもらうためには、若い人の感性を刺激する魅力ある展覧会を少なくとも1年に1度は行っていく必要がある。そのためには、目の前の入館者数、特財率の結果のみを評価の指標にするのではなく、将来的な愛好者の獲得と育成という観点から政策的に現代美術展を行っていくという全館的な意思と理解が必要である。
-----------	--

<p style="text-align: center;">■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)</p>				部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
				担当者名	森井・小針(南)		総括 平成23年10月12日
				実施日・場所	7月19日(火)～9月8日(木) 静岡県立美術館第1～6展示室		
				学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定・借用、図録編集・執筆等
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無				
事業名称	開館25周年記念「芸術の花開く都市」展						
企画(事前)				総括(事後)			
目的・内容	本展は、優れた芸術を生み出した国内外の都市や地域に注目し、魅力ある作品を紹介するとともに、都市や地域の文化創出力の類似点・相違点を探り出すものである。出品作品は、当館のコレクションに加えて、秀逸な質と豊富な点数を誇る石橋財団プリチストン美術館(東京)のコレクションの中から、モネ、ルノワール、マチスなどを特別出品する。			目的の達成度	アンケート結果にみる「全体的な満足度」は、90.0%(うち、新規来館者 94.5%)、また「作品やテーマへの興味・関心の深まり」は、81.0%(うち、新規来館者 86.1%)と、いずれも高い数値に達したのに加えて、自由回答欄にも「歴史に沿っていて、フランスやイタリアに行ってみたく思いました。」「様々な都市や年代の作品が比較できて楽しかった。人が多すぎず快適に観ることができたので良かった。」といった、本展の内容と質に関するアウカム評価が見られたことから、本展の目的・内容は、概ね鑑賞者に理解され、満足が得られたといえる。一方、「作品やテーマへの興味・関心への深まり」に「はい」と回答した割合は、38.7%で、「小谷元彦 幽体の知覚」の56.0%に比べて、差が見られた。		
期待される成果	芸術作品への理解・関心に加えて、都市・地域との関係性、すなわち気候・風土といった「芸術地理学的視点」から、当館のコレクションへの理解が深まることが成果として挙げられる。また石橋財団プリチストン美術館をはじめとする他館からの特別出品により、当館コレクションに興行が生まれることも成果の一つである。			アンケートにみる特徴	回答者には、40代・50代の女性層が多い(36.2%)。居住区域は、静岡市が最も多い(45.9%)。来館のきっかけは、「新聞を見て」が、19.2%と多く、つぎに口コミが17.4%と多い。また若年層ほど、インターネットによる来館率が高くなる傾向にある。「心地よく鑑賞」は、92.3%、「スタッフの対応の適切さ」84.7%、「来館を勧めたか」66.4%と、いずれも高い数値を示した。一方、「来館を勧めたか」に「はい」と回答した人は、29.1%で、「小谷展」の42.1%に比べて、差が見られた。また「風景の美術館の認知度」は、来館10回以上 51.0%、20回以上 60.0%とリピーターほど数値が高くなっており、広報効果が徐々に表れてきているといえる。		
指標(数値目標)	観覧者数 25,600人、作品やテーマに興味を持った人の割合 70%			指標に基づく成果	観覧者数 15,368人(60.0%)、作品やテーマに興味を持った人の割合 81.0%		
収支(予算)/観覧者数(見込)	・観覧者数 25,600人 ・歳出 17,542千円 ・歳入 12,738千円 ・特財率 72.6%			研究活動評価委員会からの意見(要約)	「25周年記念展として、ふさわしい展示となっていた。研究面ではカタログテキストや解説パネルが充実している。<見る+読む>という2つの側面からも楽しめるものであった。会期中の的を絞ったイベント、講演も多彩で良い。」(金原委員) 「近代都市民のオプティミスティック(印象派に見られるような)田園画を中心とした風景画展のようにも思われる。日本部門との相違(小林清親、石井柏亭、須田国太郎、小谷元彦、森村泰昌)なども、不思議で面白かった。」(坂本委員)		
広報戦略	年齢、性別、居住地を問わないが、夏休み期間中であり、当館コレクションにプリチストン美術館の名品を加えた出品作を児童や生徒たちに見てもらいたいと考えている。静岡新聞社・SBS静岡放送との共催により、県民に広く広報する。併せて、多様な媒体によって、本展を広く周知する。			収支(決算)/観覧者数(実績)	・観覧者数 15,368人(目標 25,600人: 60.0%) ・歳出 12,038千円※(予算 17,542千円: 72.4%) ※見込値 ・歳入 8,447千円(目標 12,738千円: 66.3%) ・特財率 70.2%(目標 72.6%)		
				今後の改善点・課題	アンケート結果の通り、本展は、当館のコアなリピーター層に対しては、その内容・趣旨が理解されたと考えられる。しかしながら、これまで当館に来館していない新たな顧客層、とくに若年層、県外からの来館者等については、広報が充分に行き届かなかったといえる。また、夏休み期間中の児童や生徒の誘客についても、充分ではなく、今後、プログラムの内容について検討する必要がある。今後は、新聞・テレビといった既存メディアのみならず、新たな媒体の検討にも取り組み、優れた美術作品を多くの人々に見ていただけるよう工夫する必要がある。 ※本評価表の趣旨からは、それが、「小谷元彦」展のような新規来館者をターゲットとした事業と本展のようなコアなリピーターに支持される事業とを年間計画の中で、戦略的に組み合わせ、より効果的な政策を策定・実現することも必要であり、検討すべきである。		

<p style="text-align: center;">■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)</p>				部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
				担当者名	石上、福士		総括 平成23年12月21日
				実施日・場所	10月22日(土)～12月4日(日) 静岡県立美術館第1～6展示室		
				学芸員の企画への参加の有無	有	無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等
マスコミ等による共催の有無	有	無	巡回の有無	有	無		
事業名称	「京都国立博物館名品展 京都千年美の系譜」展						
企画(事前)				総括(事後)			
目的・内容	京都国立博物館は日本・東洋の古美術を所蔵する国内最高峰の博物館であるが、常設会場である新館の建て直し工事に伴い、通常であれば出品困難な貴重な文化財をまとめて拝借する機会を得ることができた。当館の日頃の活動方針とも関連付け、「祈りと風景」をテーマとし、絵画、漆工、陶磁器、染織など多岐に渡る京博所蔵品を通して、古来日本人が風景に寄せてきた眼差しをたどり、自然との交わりの中で育んできた心性、「聖なるもの」を宿す世界としての風景への思いを探る。			目的の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画のみならず、染織・漆工・陶磁など、多岐にわたる分野からきわめて質の高い作品を出品することができた。これは、単なる名品展ではなく、当館の活動テーマと関連させた展示構成案に対して京博の理解を得ることができたためであり、日本・東洋美術の粋に触れる機会を提供するという当初の目標は十分に達成されたといえる。 ・観覧者数は目標には及ばなかったが、観覧者の満足度は89.9%と非常に高い数値を示しており、この点は目標を大きく上回った。 		
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝、重要文化財を多数含む非常に質の高い展示内容により、千年に及ぶ日本・東洋の美の粋に接する機会を提供する。当館は山水・風景画をコレクション形成の柱とし、風景表現にまつわる様々な展覧会活動を行ってきたが、この礎の上に、より広範な時代とジャンルにわたる京都国立博物館所蔵品を展示することによって、当館の活動に広がりや深みを与える。 ・歴史、美術の教科書に登場する重要作品を間近に見ることで、古代から近世までの日本の文化を体感し、文化財の保護・継承という博物館の役割について知ってもらう。 			アンケートにみる特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・年代層が高く、女性の割合も高い(50歳以上が約6割、女性が7割近い)。 ・テレビ・新聞をきっかけとした方が多い(55%)。 ・市内からの来館者が多い(45%)。 		
指標(数値目標)	観覧者数 32,000人、作品やテーマに興味を持った人の割合 70%			指標に基づく成果	観覧者数 24,140人(75.4%)、作品やテーマに興味を持った人の割合 88.2%		
収支(予算) /観覧者数(見込)	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数 32,000人 ・歳出 11,000千円 ・歳入 9,674千円 ・特財率 87.9% 			研究活動評価委員会からの意見(要約)	<ul style="list-style-type: none"> ・高質な作品の鑑賞機会を提供したという点で大変意義深い。また、それらに付された解説がわかりやすく工夫されており、学芸員の意欲を感じ取ることができた。(金原) ・大変充実した内容であったと思う。こうした展覧会が、今後の研究・展覧会企画へと生かされることを期待したい。(榎原) 		
広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡第一テレビとの共催であり、テレビスポットを活用した広報を展開する。 ・歴史に関心の高い層へのアピール、団体観覧の促進のための学校への働きかけなど、いわゆる美術ファン以外の情報浸透を図る。 			収支(決算) /観覧者数(実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数 24,140人(目標 32,000人: 75.4%) ・歳出 10,392千円(予算 11,000千円: 94.5%) ・歳入 9,107千円(目標 9,674千円: 94.1%) ・特財率 87.6%(目標 87.9%) 		
				今後の改善点・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の充実度、観覧者の満足度からすれば、もっと観覧者数があってもよかった。 ・展覧会タイトルがやや抽象的、ポスターデザインが地味 ・この2点が反省点であろう。広報・集客という観点からすれば、展覧会の構成を支えるテーマを、タイトルとしてストレートに反映させた結果、展覧会の魅力を充分には伝えることができなかった可能性が考えられる。 		

■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)				部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
				担当者名	飯田		総括 平成24年3月31日
				実施日・場所	12月17日(土)～平成24年3月4日(日) 静岡県立美術館第1～6展示室		
				学芸員の企画への参加の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	カタログに作品解説執筆
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無				
事業名称	「草原の王朝 契丹」展						
企画(事前)				総括(事後)			
目的・内容	唐王朝滅亡後、10世紀初頭から12世紀中頃にかけ北アジアで勢力を誇った契丹王朝は、巧みな騎馬戦術と唐を継承する高い工芸技術によって国力を増大させ、栄華を極めた。本展は近年の目覚ましい発掘調査によって明らかとなった、契丹の文化を紹介する展覧会。遊牧民族が育んだ崇高かつ美麗な文化は、近年欧米でも関心を高めているが、その精華を一挙公開する企画は日本初。九州国立博物館の多年にわたる修復協力から実現した展覧会で、出品される彫刻、金工、絵画等は、正倉院の宝物に匹敵する質の高さをもつ。出品数は約120件。			目的の達成度	予定されていた目玉作品が事情により出品できなくなった。そのため想定していた観覧者数に達しなかった。ただし、その際、分担金の値下げもあったため、収支は問題なく、特財率98.0%を達成した。展示内容もよく、来館者からは概ね好評であった。契丹文化理解に繋がったものと思われる。広報活動も、会期前半で対策会議を行い追加広報を行った。その成果が後半の観覧者増に結びついたと思われる。		
期待される成果	・質の高い文化財の展示によって、契丹・遼王朝の文化の高さを知り、10世紀～12世紀にかけての東アジアの文化に対する理解を深める。 ・美術愛好者だけでなく、歴史に興味のある人の来館を期待したい。			アンケートにみる特徴			
指標(数値目標)	観覧者数 44,000人			指標に基づく成果	観覧者数 34,245人(77.8%)		
収支(予算)/観覧者数(見込)	・観覧者数 44,000人 ・歳出 18,000千円 ・歳入 14,760千円 ・特財率 82.0%			研究活動評価委員会からの意見(要約)			
広報戦略	・共催の静岡新聞・静岡放送の協力のもと、歴史的観点なども交え多角的な広報を展開する。 ・講演会の開催なども積極的に広報し、知識を求めている人の来館も促す。 ・本展は、福岡、大阪、東京巡回であるので、巡回のない中京地区にも広報展開することを考える。			収支(決算)/観覧者数(実績)	・観覧者数 34,245人(目標 44,000人: 77.8%) ・歳出 13,527千円<概数>(予算 18,000千円: 75.2%) ・歳入 13,267千円<概数>(目標 14,760千円: 89.9%) ・特財率 98.0%(目標 82.0%)		
				今後の改善点・課題	多くの人知らない「契丹」を広報するのが難しかった。口コミをどう拡げ、観覧者増に結びつけるか今後の課題である。		

【参考資料 2】

平成 23 年度調査・研究に関する自己点検評価報告書

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 26 日	
職・氏名	学芸部長・小針由紀隆
●専門分野	西洋美術
●所属学会	美術史学会、三田芸術学会
●主要研究テーマ	17世紀から19世紀前半のイタリアにおける風景画に関する諸問題
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「アルカディア考ー牧人生活をめぐる文学と絵画」『桃源万歳』展図録 岡崎市美術博物館 平成 23 年 4 月	
2 「ローマとその近郊、そしてナポリへ」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月	
3 「ユベール・ロベールとイタリアーピトレスクなものを求めて」『ユベール・ロベール』展図録 国立西洋美術館ほか 平成 24 年 3 月	
	小計 3 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「芸術の花開く都市」展 副担当	
2 同展 美術講座「ローマ、ナポリ、そしてシチリアへ」	
3 「ふじのくに芸術祭 2011」 主担当。	
4 企画展「百花繚乱」展 フロアレクチャー 1 回	
5 出張美術講座 1 回	
	小計 5 本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 ふじのくに子ども芸術大学実行委員	
2 ふじのくに芸術祭企画委員	
3 ふじのくに芸術祭美術部門審査員	
4 静岡市美術館協議会委員	
5 静岡市美術館学芸採用試験委員	
6 静岡県舞台芸術評議員	
7 国立西洋美術館作品購入価格評価員	
8 文科省科学研究費補助金報告会 国立西洋美術館 平成 23 年 4 月	
9 京都国立博物館夏期講座 ハートピア京都 平成 23 年 7 月	
10 ムセイオン静岡「鉄道と画家(フランス編)」静岡県立美術館 平成 23 年 10 月	
11 世界の文化遺産・全学年共通講義 静岡県立大学 平成 23 年 12 月	
	小計 11 本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等	
	計 0 本
合計 21 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 26 日

職・氏名 学芸課長・飯田 真

- 専門分野 日本美術史
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 日本近世近代絵画史 富士山と美術、日本の風景表現

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計 0 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

- 1 企画展「草原の王朝 契丹」展 主担当
- 2 収藏品展「富士山の絵画 2012」 担当

小計 2 本

5. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- 1 豊橋市美術博物館 資料収集委員
- 2 静岡市文化財保護審議会委員
- 3 久能山総合調査研究員

小計 3 本

6. 収藏品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 5 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 29 日	
職・氏名	上席学芸員・南美幸
●専門分野	美学・美術史
●所属学会	美術史学会、日仏美術学会
●主要研究テーマ	西洋美術史、ロダン関連
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 研究ノート「蔵書から立ち現れるロダン」『アマリリス』104号 静岡県立美術館 平成 23 年 1 月	
小計 1 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「芸術の花開く都市」展 副担当	
2 企画展「百花繚乱」展 フロアレクチャー 1 回	
3 ロダン館タッチ・ツアー 3 回	
4 中学校出張美術講座 1 回	
5 ロダン賞受賞記念コンサート「クラリネットと名曲の午後」	
小計 5 本	
7. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
小計 0 本	
8. 収蔵作品に関する論文・発表等	
小計 0 本	
合計 6 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 31 日	
職・氏名	上席学芸員・堀切正人
●専門分野	美術史
●所属学会	美術史学会、美学会
●主要研究テーマ	日本の近現代美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 The Body and Printworks: On Noriko Yanagisawa's Works, <i>Noriko Yanagisawa Dreams of the Land</i> , Bengal Art Lounge, Dhaka 2 「鉄の言祝ぎ 金沢健一作品について」『金沢健一』展図録 川崎市立美術館	
小計 2 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 新収蔵品展 フロアレクチャー 1 回 2 企画展 「小谷元彦 幽体の知覚」展 副担当 3 同展 フロアレクチャー 1 回 4 企画展 「川村清雄」企画、準備 5 他館巡回展 「石田徹也」企画、準備 6 収蔵品展 「彼方からの光」 担当 7 移動美術展 (沼津、浜松)、次年度移動美術展の準備 主担当 8 同展 ギャラリートーク 8 回 9 他館企画展 (三菱地所アルティウム)「石田徹也展」協力 10 企画展 「百花繚乱展」フロアレクチャー 2 回 11 同展 ワークショップ「もの・ひと・はこ」 12 同ワークショップ 講演会 1 回 13 ロダン館 フロアレクチャー 5 回 14 「ロダン館 やぐらプロジェクト」 15 「ロダン館 折り紙プロジェクト」 16 出張美術講座 9 回 17 出張ロダン体操 3 回 18 講義「実技系ワークショップの企画」 常葉学園大学造形学部 2 回 平成 23 年 6 月、7 月 19 講演 (富士市立博物館ボランティア研修) 平成 23 年 7 月 20 「ART!」ファシリテイト 21 「ARU?」企画 22 高校生ギャラリートーク 2 回 23 本原絵画教室ロダン館ワークショップ指導 平成 23 年 8 月 24 常葉美術館グリーンウッドセミナー講演 平成 23 年 10 月 25 鑑賞教育指導者研修会、講演 平成 23 年 12 月	
小計 25 本	
9. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 「シズオカ×カンヌウィーク 2011 Tシャツデザインコンテスト」審査 2 講演「「箱と人」による展示 X+Y」展シンポジウム 平成 23 年 6 月 3 「「箱と人」展によせて」『「箱と人」による展示 X+Y』展パンフレット 4 「草薙地区まちづくりワークショップ」参加 5 回 5 講演「都市とアートと美術館 “プレーメン的・シズオカの”」シンポジウム“再開”(主催:静岡・プレーメンアートプロジェクト 2011 実行委員会) 平成 23 年 10 月 6 「日独交流 150 周年静岡・プレーメン国際交流 PROJECT DECWAS 展評」芸術批評誌『DARA DA MONDE』 7 「化石の虚実」『柴川敏之展』パンフレット (a piece of space APS, Tokyo)	
小計 7 本	
10. 収蔵作品に関する論文・発表等	
1 研究ノート「二つの来観者参加型ワークショップについて」『アマリス』105 号 平成 24 年 4 月	
小計 1 本	
合計 35 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 29 日	
職・氏名	主査・伴野 潤
●専門分野	教育普及
●所属学会	
●主要研究テーマ	当館教育普及における学校連携について
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計 0 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 実技室イベント (通年)	
2 出張美術講座 5 回	
3 石巻市キヌヤ商店提供被災系によるワークショップ 清水ドリームプラザ	
4 沖縄県立博物館・美術館教育普及視察の対応	
	小計 4 本
11. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 平成 23 年度静岡県「防火ポスター」審査員	
2 平成 23 年度こどもたちの文化芸術鑑賞事業	
3 キッズアートプロジェクト (6 館連携事業)	
	小計 3 本
12. 収蔵作品に関する論文・発表等	
	小計 0 本
合計 7 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 22 日	
職・氏名	上席学芸員・新田建史
●専門分野	美学美術史
●所属学会	地中海学会、保存修復学会
●主要研究テーマ	西洋 16～18 世紀美術、東西美術交流史、東西版画史
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 ポスターセッション「静岡県立美術館における、保存修復業務についての普及活動」第 33 回 文化財保存修復学会大会 奈良県新公会堂 平成 23 年 6 月 2 「静岡県立美術館の保存業務」『博物館研究』平成 23 年 7 月号 3 「静岡県立美術館の地震防災体制について」『静岡県立美術館紀要』27 号 静岡県立美術館 平成 24 年 3 月	
小計 3 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「百花繚乱展」 主担当 2 同展 特別講演会 2 回 3 同展 フロアレクチャー 3 回 4 収蔵品展「オールド・マスターズ」 担当 5 同展 フロアレクチャー 1 回 6 収蔵品展「マスター・プリント」担当 7 同展フロアレクチャー 1 回	
小計 7 本	
13. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 文化財レスキュー（石巻市民文化センター） 平成 23 年 4 月、11 月 2 講演「博物館園の地震防災—想定東海東南海地震に備える—」 静岡県博物館協会平成 23 年度第 1 回講習会（愛知県博物館協会と連続の講習会） 平成 23 年 10 月 3 講演「美術館・博物館の地震災害」 文化財ボランティア入門講座（NPO 文化財を守る会主催）平成 23 年 11 月	
小計 3 本	
14. 収蔵作品に関する論文・発表等	
1 研究ノート「静岡県立美術館の害虫モニタリングについて」『アマリリス』102 号 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月 2 パネルディスカッション「百花繚乱展での試みについて」 第 7 回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー 平成 23 年 6 月 (3 「静岡県立美術館の地震防災体制について」『静岡県立美術館紀要』27 号 【上記】)	
小計 2 本	
合計 16 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 22 日	
職・氏名	主査・鈴木雅道
●専門分野	教育普及
●所属学会	
●主要研究テーマ	当館教育普及における学校連携の可能性について
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「学校と美術館の連携について～鑑賞教育指導者研修会の実践報告～」静岡県博物館協会 研究紀要 35号 平成 24 年 3 月	
	小計 1 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 収蔵品展「親子で楽しむ美術館—近代日本画にみる線と面—」	
2 実技室イベント (通年)	
3 石巻市キヌヤ商店提供被災糸によるワークショップ 清水ドリームプラザ	
4 第三回鑑賞教育指導者研修会	
5 出張美術講座	
6 第 51 回静岡県芸術祭	
	小計 6 本
15. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 講演「学校と地域の連携」静岡県総合教育センター内生涯学習センター主催教員研修	
2 海上保安庁清水庁舎主催「青い海絵画コンクール」審査員	
	小計 2 本
16. 収蔵作品に関する論文・発表等	
	小計 0 本
合計 9 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 31 日	
職・氏名	上席学芸員・川谷承子
●専門分野	現代美術
●所属学会	
●主要研究テーマ	日本とアメリカの戦後美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業 1 企画展「小谷元彦展 幽体の知覚」 主担当 2 収蔵品展「girl/woman/mother アーティストが描き出す少女、女、母のイメージ」 担当 3 企画展「カラーリミックス」展（準備） 担当	小計 3 本
17. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動 1 寄贈申出作品の調査 2 寄託作品の調査・研究 3 磯辺行久氏からの寄託申出作品調査（アトリエへの訪問調査） 4 草間彌生《無題》の海外貸出クーリエ 5 地域連携活動（静岡アート郷土史プロジェクト芸術批評誌「DARA DA MONDE」座談会参加）	小計 5 本
18. 収蔵作品に関する論文・発表等	小計 本
合計 8 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 26 日	
職・氏名	上席学芸員・村上敬
●専門分野	日本近代美術史、文化資源学
●所属学会	美学会、美術史学会、文化資源学会、明治美術学会
●主要研究テーマ	近代日本工芸・デザイン史
<p>1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)</p> <p>1 口頭発表「工芸指導所と竹工芸—1930年代モダニズムから50年代ジャパニーズ・モダンをめぐるシンボリズム」 明治美術学会 2011年度第3回例会 平成23年9月</p> <p>2 論文「商工省工芸指導所と竹工芸—1930-1950年代の産業工芸をめぐって」 東京大学大学院人文社会系研究科修士論文 平成23年12月提出</p> <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
<p>2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業</p> <p>1 企画展 「川村清雄」展 (準備)</p> <p>2 企画展 「夏目漱石と美術」展 (準備)</p> <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
<p>19. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</p> <p>1 ゲストレクチャー「評価がつなぐ アートと行政」(県立美術館の評価活動について岩瀬智久氏と対談) 東京大学大学院文化資源学研究室小林真理ゼミ勉強会 平成23年11月</p> <p style="text-align: right;">小計 1 本</p>	
<p>20. 収蔵作品に関する論文・発表等</p> <p style="text-align: right;">小計 0 本</p>	
合計 5 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 21 日	
職・氏名	上席学芸員・泰井良
●専門分野	美学・美術史、ミュージアム・マネジメント
●所属学会	美術史学会、美学会、日本ミュージアム・マネジメント学会
●主要研究テーマ	近代美術史、ロダン、美術館評価・文化政策
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「江戸から東京へ-「変わる風景」「変わらない風景」-」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月 2 「京都・大阪・神戸-それぞれの都市と芸術-」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月 3 コラム「雲と近代」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月	
小計 3 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展 「芸術の花開く都市」展 2 企画展 「草原の王朝 契丹」展 副担当	
小計 2 本	
21. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 佐々木亨・泰井良「博物館を評価する-ODA の評価方法・枠組みと比較して」『日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要』第 16 号 平成 24 年 3 月	
小計 1 本	
22. 収蔵作品に関する論文・発表等	
1 研究ノート「曾宮一念《毛無連峯》に関する一試論～「もうひとつの絶筆」をめぐって～」『アマリス』103 号 静岡県立美術館 平成 23 年 10 月 (2 「江戸から東京へ-「変わる風景」「変わらない風景」-」『芸術の花開く都市』展図録 平成 23 年 7 月 3 「京都・大阪・神戸-それぞれの都市と芸術-」『芸術の花開く都市』展図録 平成 23 年 7 月 4 コラム「雲と近代」『芸術の花開く都市』展図録 平成 23 年 7 月 【上記】)	
小計 1 本	
合計 7 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 31 日	
職・氏名	主任学芸員・石上充代 (平成 23 年 8 月 10 日より産休)
●専門分野	近世・近代日本画
●所属学会	美術史学会
●主要研究テーマ	十八世紀以降近代までの日本画
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「祈りと風景をめぐる諸相—京都国立博物館コレクションから」『京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景—』図録 平成 23 年 10 月	
小計 1 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景—」 主担当 (～8 月)	
2 収藏品展「親子で楽しむ美術館 近代日本画にみる線と面」 担当	
3 同展 フロアレクチャー	
4 同展 親子鑑賞講座	
小計 4 本	
23. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
小計 本	
24. 収藏品に関する論文・発表等	
小計 本	
合計 5 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 21 日	
職・氏名	主任学芸員・福士雄也
●専門分野	美術史
●所属学会	美術史学会、近世絵画研究会
●主要研究テーマ	近世絵画史
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「京都上る下る一洛中洛外図を歩く」『京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景』図録 静岡県立美術館 平成 23 年 10 月 2 「服部永錫蒐集の書画帖—《縮地妙詮帖》とその周辺—」『静岡県立美術館紀要』27 号 静岡県立美術館 平成 24 年 3 月	
小計 2 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景—」主担当 2 同展 特別講演会 2 回 3 同展 美術講座「洛中洛外図を歩く」 4 同展 フロアレクチャー 5 回 5 収蔵品展「円山・四条派の絵画」展 担当 6 同展 フロアレクチャー 1 回 7 収蔵品展「日本画—春の景」展 担当 8 同展 フロアレクチャー 1 回 9 出張美術講座 1 回 10 中学生事業出張美術講座 1 回	
小計 10 本	
25. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 口頭発表「上方版画と伊藤若冲」(城西大学水田美術館建設記念シンポジウム「近世版画の色と技」、城西大学紀尾井キャンパス) およびパネルディスカッション 平成 23 年 6 月	
小計 1 本	
26. 収蔵作品に関する論文・発表等	
(1 「服部永錫蒐集の書画帖—《縮地妙詮帖》とその周辺—」『静岡県立美術館紀要』27 号 静岡県立美術館 平成 24 年 3 月 【上記】)	
小計 (1) 本	
合計 13 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 21 日	
職・氏名	臨時技術員・大原由佳子
●専門分野	日本画
●所属学会	なし
●主要研究テーマ	安土桃山時代を中心とした大画面絵画（特に長谷川派関係の作品）
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計 0 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「草原の王朝 契丹」展 副担当 2 同展 フロアレクチャー 3 出張美術講座 5 回	小計 3 本
27. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	小計 0 本
28. 収蔵作品に関する論文・発表等	小計 0 本
合計 3 本	